復讐王リチャード

神城匠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
復讐王リチャード

【Ｎコード】
Ｎ４７６４ＢＡ

【作者名】
神城匠

【あらすじ】
母を父に殺され、父に見捨てられた少年リチャードは、父の死後、その王国を受け継いで国王リチャード一世となる。そして彼は、王の力を駆使してこれまでの人生で自分を苦しめてきたありとあらゆる人間を根こそぎ殺すという、とてつもない復讐作戦を開始した。仇や悪党を殺して殺して殺しまくった先に、リチャード王が得たものは……。
復讐だけでなく、国造りなどの内政要素や恋愛要素もあり（予定）。

1：復讐王誕生（前書き）

別作品を連載中なのに書き出してしまいました。すいません。
この作品は、要するに私の妄想を小説化したものです。腹の立つ上司や先輩をぎゃふんと言わせるにはどうしたらいーかなーと考えていたら、こんなアイデアが浮かんできました。

1：復讐王誕生

これはもしもの話である。

もし、王様になれるとしたら、なったとしたら、真っ先になにをするか？　そんな質問があったとして人はどう答えるであろうか。

思う存分、贅沢三昧な日常を過ごすと言い張る者もいるだろう。

あるいは、国中の美人をかき集め、ハーレムを作り、女狂いの毎日を送りたいと思う者もいるに違いない。

さもなくば、王でなければできぬ遊びで心行くまで満喫したいと考える者もいたって不思議はなかった。

真面目な者であれば、政治や軍事に勤しみ、民や国のために粉骨砕身頑張ると答えるかもしれない。さて、君はどうだったであろうか。

今年で十五歳を迎えるアルフォード王国のリチャード一世はそのいずれでもなかった。

期せずして国王の座に就いたこの少年は、王になる前の彼を苦し

めてきた全ての人間に対して辛辣に徹底的に報復していったのである。

要するに、この少年が、王になって真っ先にやったことは、復讐であった。

元々、リチャードという少年は、一応王の子として生まれたものの、長男ではなかった上に妾の子だったから、徹底的に不遇な人生を歩んできた。彼を産んだ母は、農民の娘の分際で王の子を産み落とした罪で処刑され、彼自身は、生きながらに棺の中に入れられて王都の側を流れる大河に流されたのだ。それだけではない。死ぬ寸前だった彼を間一髪で助け出し、五歳になるまで育ててくれた猟師も、王が課した理不尽な重税を払わなかった罪で火炙りの刑に処されて死んでしまった。

六歳の時、ひょんなことで彼の出自が判明し、父王に謁見することができたが、その時の父王の一言がこれであった。

「目障りじゃ。殺せ！」

このときは、王の寵愛を一身に受けていた貴妃の熱心な助命嘆願があったので、生命だけは助けられたが、その貴妃も、一年後には王の寵を失い、さらに半年後には他ならぬ王の命令によって処刑されてしまっていた。

その彼も、王宮ではほとんど召使同然の扱いを受けていたが、貴妃の失脚後、王宮からも追放されて文字通りの乞食とならざるを得なくなった。

以後の彼は、とてつもなくどん底の生活を送り、ありとあらゆる

辛酸をなめてきた。

そして、

王が危篤状態に陥ると、彼は王の勅命の名の下に再び王宮に呼び戻され、即日、王子の称号と王太子の地位が与えられることになった。

それから二日後、王が崩御すると、彼は自動的に国王となり、そして、早速復讐作戦を開始したのであった。

即位からたった二日目の王がやったこと。

政治でもなければ軍事でもないし、まして贅沢に走るわけでも女に耽るわけでも酒浸りになるわけでもなく、復讐。

全く持って前代未聞の王であるが、その手口も、王というよりむしろただの悪党という感じで、王国の重臣たちが眉を顰めるに十分すぎるものであった。

即位二日目の朝。

リチャード王は近衛兵二〇〇あまりを率いてアルフォード城を出ていった。重臣たちには、ただ気晴らしに城下を突っ走ってくると

だけ言っておき、実のところ彼が向かった先は、王になる前に暮らしていた小さな村であった。

王家伝来の鎧と深紅のマントに身を包んで、白馬に跨り颯爽と姿を現したリチャード王の風格は、およそ一五歳の少年とは思えぬほど圧倒的であった……と、後世の歴史家は伝えているが、その彼の口から飛び出した言葉に、村長は驚いた。

なぜならば、

「前の村長とその取り巻き連中。即ち、ここに列挙した者どもを悉く余の前に引っ立てよ。例外はない。後、三〇分で全員を引きずり出せ。さもなくば、村全土を焼き払い、老若男女を問わず皆殺しの刑に処してくれる！」

こんな内容であったからである。

だから村長たちは慌ててすっ飛んで行き、名簿に記された人間の全てを王の御前に引きずり出し、献上した。

一方、怒る王の御前に引きずり出されてきた者たちは、何がなにやらさっぱり分からぬといった様子で、困ったようにリチャード王の顔色をうかがったりしていたが、その王が、かつて村の片隅で卑屈に暮らしていた乞食のリチャードだということに気づくと、その顔色はたちまちのうちに一変していった。

昔馴染みの若き王。

ならば、恩賞の一つも出るかもしれないと、たわけた期待を抱いたのである。しかし、彼らのその期待は、他ならぬ若き馴染みの王

の口によって完璧にへし折られ、逆に絶望のどん底に突き落とされることになった。

リチャード王曰く。

「さて、貴様たちには散々お世話になってきた。此度はその礼を言いたくて参ったのだが、一つここで皆より受けた御恩とやらを逐一説明してやろう。

まず、前の村長たるロバート・ヘストン殿だが、貴殿のその尊大にして卑怯極まりない性格のおかげで、俺は唯一の親友にして家族だった少女エレンを失った。貴殿はかつて、若干の金欲しさに村に巣食う親なき少女を根こそぎ奴隷商人たちに売り払ったことがあるだろう。エレンもまた、貴様によって売られた女の一人であった。あの歳で、徹底的に辱められた彼女は、人生に絶望した挙句、自ら毒を呷って死んでしまったよ。

そのヘストン殿の御嫡男たるヘンリー殿。貴殿は、この私が食うに困ってほとんど餓死寸前の状態にあった折、わざと毒饅頭を喰らわせ、俺の苦しむ様を子分たちと一緒に楽しそうに見学してくれたな。俺は辛うじて九死に一生を得たが、あの時の毒のおかげで頭痛持ちになってしまった。

そのほかの者も、俺が稼ごうとしたら、それを徹底的に邪魔してくれたり、税金だとか抜かして稼ぎを根こそぎ奪い取ってくれたり、他にも汚いだの臭いだの、散々に罵ってくれたな。貴様たちから浴びせられた罵声の数々は、今でも忘れられぬ。

だが、勘違いはしないでほしいんだ。全く持って、貴様たちには感謝しているんだよ。

貴様たちが俺を徹底的に虐め抜いてくれたおかげで俺には忍耐力がついた。そして、俺はついに王になった。全く、君たちが忍耐することを教えてくれたおかげだ。さもなければ、俺は父に召しだされ、王の座を継げと言われた時、冷然と拒否していただろう。そして父を殺していただろう。だが、俺は耐えた。耐えれたんだよ。貴様たちのおかげでな。その感謝の気持ちを込めて、貴様たちにはとっておきの褒美を用意してある。受け取ってくれたまえ」

全てを言い終わった時、王は軽く手を振り上げた。

兵はそれに応じて俊敏に動きだし、たちまちのうちに哀れな生贄たちを次々と取り押さえ、村の広場に設けられた即席の処刑場へと連行していった。

「い、命だけは……」

「お願いだ。助けてくれ」

「昔のことはすまなかった。心を入れ替えるよ。助けてくれ。命だけはとらないでくれ」

誰もが口ぐちにそんな風に叫んで、王に許しを請うている。

しかし、リチャード王の怒りはその程度で収まるものではなく、

「もう遅い。せめて後一年前にその弁明があれば、余は貴様らをこんな目には遭わせなかっただろう。だが、今更遅すぎる。この俺を虐め抜いたこと、とっぷりと後悔した上で、潔く死ね！」

その言葉は徹底的に冷酷さに満ちていた。

いずれにしても、王の宣告は下ったのだ。

処刑執行人は哀れな受刑者たちの首に縄をかけ、全ての準備が終わると、王に目配せし、その旨を伝える。

「では、執行しろ！　その薄汚いクズどもをこの世から葬り去れ！」

リチャード王の厳命が飛び、

次の瞬間、

王の恨みを買っていた多くの村人たちが、悉く空に舞い上がり、そして苦しみもがきながらバタバタと死んでいった。

リチャード王の復讐作戦は、それだけでは終わらない。

ある時は、王宮に連行してきて、自らの手で処刑することもあった。

ある時は、殺すのではなく奴隷の身分に落とし、生きながらの死を命じることもあった。

新王リチャード一世の名は、血生臭い復讐王として、王国臣民の

うちで知らぬ者は一人もいなくなった。それでもリチャードは、殺すのを止めなかった。

当然、政治もそっちのけで復讐ばかりやっている王に、不審を抱く者も現れる。

彼には王たる資格はない。このままでは、王国が潰れてしまう。

切実に心配し始めた者たちの一部は、王への諫言に励み、大多数は王へ反旗を翻す道を選んだ。そもそも彼らは、農民の娘の子として生まれたがゆえに冷遇され続けてきたリチャードを国王として認める気がなかった。とりあえずこれまでは他に適当な候補がいなかったために仕方なく王として仰いできたが、王となって以後の彼の態度を見る限りにおいて、もはや王と仰ぐことは不可能と考えた彼らにとって、反乱は当然の選択肢であり、かつ彼らにとってこれは決して叛乱ではなく正義の挙兵なのであった。

こうして、リチャード一世の波乱に満ちた人生が幕を開けた。

父に見捨てられ、母を殺され、孤児として十五歳になるまで生き続けてきた少年の、これは崖っぷちからの再スタートであった。

1：復讐王誕生（後書き）

感想、評価、お待ちしています。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4764ba/

復讐王リチャード

2012年1月13日00時02分発行